

コアジサシの子育てを見守ろう



◆コアジサシとは◆

4月下旬に南のオーストラリアなどから日本に繁殖のために渡ってくる夏鳥です。5～7月頃には海岸・河原・埋立地などの砂地や裸地などの地上に集団で繁殖します。本来の繁殖環境である河川敷や中洲の砂礫地、海岸の砂浜などの減少が著しいことから、開発途中の造成地など代替環境で繁殖する場面が多くなっていますが、そうした環境は非常に不安定です。大阪でもコアジサシの繁殖コロニーのほとんどが、**大阪湾岸の埋立地**で確認されています。繁殖地への人や工事車両などの出入りの影響や、カラスや猫などの天敵に襲われるなどして、繁殖の成功率は10%未満と言われるほど低い状況です。

そのため、環境省のレッドリストでは、絶滅の恐れがある**絶滅危惧Ⅱ類 (VU)**に、大阪府ではさらに絶滅の危険性が高い**絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)**に指定されています。また**国際希少野生動物種**にも指定されています。

◆**特徴**◆ 全長約25cm、全身白色で、細身の鳥。飛翔姿は翼が非常に長く、尾はツバメのように二又に分れる。嘴は黄色で先端が黒い。脚は濃いオレンジ色。海や池に飛び込み小魚を捕まえる。キリッ、キリッと鳴く。



コアジサシ(小鰯刺) チドリ目カモメ科
英名: Little Tern 学名: *Sterna albifrons*



▲産卵数は1～4卵



▲ヒナは地上を歩き回る

卵やヒナは黒色の斑のある保護色となっていて、砂礫地に溶け込んで外敵から見つかりにくくなっています。そのため、気づかないままに、工事車両が卵やヒナを踏みつぶしてしまうといったことも起こっています。コアジサシの親鳥が地上に集団で降りていたり、小魚を嘴にくわえて運んでいけば、そこで営巣している可能性があります。営巣が確認されれば、繁殖期間中の工事の休止などの配慮が必要です。

詳しくは、「コアジサシ繁殖地の保全・配慮指針」(環境省 H26年2月 [guide_h2603-1.pdf \(env.go.jp\)](https://www.env.go.jp/guide_h2603-1.pdf))を参照してください。

コアジサシを守るために私たちにできること

- ・コアジサシの繁殖状況を調査し、実態を把握する
- ・写真撮影などで繁殖コロニーに立ち入らないこと
- ・コアジサシの繁殖できる環境を創出する
遊休地などを繁殖地として積極的に整備する
※東京都大田区の森ヶ崎水再生センターの屋上への誘致活動が有名(詳しくは、リトルターン・プロジェクト <http://www.littletern.net/> 参照)

日本野鳥の会大阪支部 2023.7

ベニアジサシにも注目

2003年に夢洲で初めて確認されて以降、近年、大阪湾岸ではコアジサシのコロニーには、少なからずベニアジサシが混じって営巣する状況となっています。体の大きいベニアジサシが、コアジサシが採った小魚を横取りする様子がよく見られます。



▲ベニアジサシ 全長31cm
環境省レッドリスト: 絶滅危惧Ⅱ類 VU
大阪府レッドリスト: 準絶滅危惧 NT